南アルプス　三峰（みぶ）川・北荒川～大井川・東俣　（沢登り＆縦走）

日程２００８・８・８～１２　参加者　K. O・I. O・S. I・A. T・K. N（記）

K. O と行く山は何年ぶりだろう。彼の提案で今回の山行は沢から沢へとつなぐコース、熊ノ平に至る最短ルートの選択、そして縦走のミックスと盛りだくさんである。そして、今回のマドンナとして彼の夫人が参加した。夫人を連れての初めての山、どんな山行になるのか楽しみである。今回のもうひとつの楽しみは岩魚釣りである。A. T の情報から、私も久しぶりに釣り道具を出して準備をした。

８・８　晴（大阪から大曲駐車場へ）

早朝 O 夫妻を彼の自宅で拾い、A. T 宅へ向かい、車を乗り換えて京都で S. I を拾う。駒ヶ根 IC で高速道を降り、山越えをして三峰川の大曲に着いた。私は自宅から９時間の長旅だった。早めの夕食を取り、明日からの山行に備えて休む。

荒川は名の通り荒れていた

８・９　晴後雷雨（４：２０～１６：２０）

ヘッドランプを付けて、三峰川沿いの林道歩き。１時間あまりで荒川に入るが、砂防ダムの影響で広い河原になり、谷が死んでいる。

南荒川との出合で北荒川に入る。ここも過去の大雨のせいか荒れている。やっと沢らしくなり、竿を出すがアタリがない。今夜は熊ノ平のテン場の予定である。２０ｍの滝は私が途中まで登ったが、K. O がロープを引いてリードする。後続にプルージックで登れ、というのにみんな引っ張りあげろとロープを結んでいる。ロープはここのみ使用。

これ以後は荒れた沢詰めとなるが、途中、雲行きが怪しくなったと思ったら、激しい雷雨となり、瞬く間に増水してきた。小雨になり源流を詰める。最後の這松を漕いで稜線に出れば、３時過ぎには熊ノ平と確信していた。ところが稜線上は這松と岩稜で行く手を阻まれた。最後の詰めで谷を左に取り過ぎたようだ。K. O も突破を試みるがマドンナは遅れがちである。もうビバークのタイムリミットが迫っている。意を決して詰め上がった谷を下降し、適当なところで K. O からビバークの声がかかる。源流部は急な斜面となっておりツエルトを張る充分なスペースがなく、思い思いに斜面を整地する。小雨が降る惨めな一夜になる。明日からの行動の変更も考えなければならないだろう。先行きに不安が走る。

岩魚と出会う

８・１０　晴後雷雨（5:００～１４:１０）

５時、それぞれ濡れたツエルトを仕舞い、隣の谷に移る。今度こそと思って詰め登るが稜線は又、這松と岩稜であった。マドンナの困惑した顔が浮かぶ。しかし、もう引き返すわけには行かない。マドンナをサポートするK. Oに代わり、とりあえずルート開拓せねばならない。昨夏の日高の猛烈な這松の藪漕ぎを思い出す。私は一足先に藪を抜け縦走路に出た。早く熊ノ平を確認しておきたかった。９時前、全員熊ノ平に到着して、今後の

行動を協議する。マドンナは熊ノ平小屋で泊まり、４人は予定通り新蛇抜山から下降して東俣の池の沢出合に出ることにする。しかし、予定の三国沢源頭までは行けまい。それに今回の目的のひとつ、岩魚釣りもしたい。だが、池の沢出合へのルートは廃道になっていて、早くも道を失う。地図を広げて協議して、支尾根を滝の谷めがけて下降する。昨日は谷の詰めで失敗した。今日はすっきりと抜けたい。最後は枝谷から東俣に出た。そこは滝の谷のすぐ下流だった。テンカラの感触を確かめたくて早速、竿を出すが、毛ばりには、岩魚は来なかった。K. Oは滝の谷へ入り二匹ゲットしている。Tも本流で釣り上げている。私はIと快適なテン場を探し上流に溯る。高台で砂地、流木も豊富と、願ってもないテン場があった。二人の釣果に刺激され、私は荷物を降ろして、また、竿を出す。今度はでかいアタリがあった。竿がしなり、遊ばれているうちに糸を切られた。しかし、大きいのを二匹あげた。今日も夕立がやってきた。３０分で切り上げテン場へ戻る。K. O は８匹、Tは３匹、４人分は確保できた。しかし、ツエルトを張る間もなく雷雨となり、とりあえず樹木の下に逃げ込む。なかなか雨は止まず流木はすっかり湿ってしまった。ナイフで岩魚をさばいて刺身と塩焼きの準備が出来たが、薪に火がつかない。どうにか置き火が出来、岩魚をあぶる。刺身も塩焼きもうまかったが、また雨が降りだした。宴会もそこそこに切り上げ、それぞれツエルトの中へ。

縦走路をひたすら歩く

８・１１晴後小雨（5:００～１6:３０）

５時発。K. O はいつも段取りがいい。源流は穏やかである。木立の中を優雅に流れる白神山地の沢を思い出す。魚止めの滝を巻くと乗越沢との出合である。乗越沢を詰めれば、熊ノ平に直接上がるが、もう少しがんばろう。雪渓がアルプスらしさに彩りを添える。三国沢と農鳥沢の出合にきた。見上げれば間ノ岳の稜線と青空がコントラストとなり美しい。K. O はマドンナに交信し、今日の行動の打ち合せ。マドンナは先に熊ノ平を出てもらう。われわれは三国平を経由して９時半、熊ノ平小屋に戻った。連日の疲れで大休止となる。ここから、今夜のテン場、雪投げ沢の源頭までが遠かった。正面に塩見岳を、左下に遡行した東俣を見ながら歩く。午後から雲行きが怪しくなったが、雨は降らずにすんだ。雪投げ沢源頭で幕営する。設営後、夜半に小雨、風が強かった。3 日間ともツエルトのため、全員揃って食事は出来ず、私は一人で残りの酒を飲んだ。

大井川東俣の源流部

充実の四日間

塩見岳頂上

８・１２晴（５：００～１２：３０）

いよいよ下山日、マドンナは一足先に出て、塩見岳の頂上で待つ。南アルプスの全景、富士山、北アルプス、中央アルプスと指呼にある。全員で記念撮影をして下山開始。この冬、計画して中止した三伏峠からのルートである。三伏峠への道に別れ、塩見新道をひたすら下る。休憩のたびに今回の山行を振り返り話が弾む。途中、大木が斧で割ったように割れていた。入山日の雷だろうか、真新しい裂け目である。荒川を渡渉して林道を大曲に戻り終了。高遠で風呂に入り帰路に着く。

アルバム集　A. T さん　撮影

一日目の北荒川の様子

←源頭部は急なザレ場
　せっかく稜線に出たけれど→

一旦下降してビバーク

二日目は大井川東俣へ下降　魚を釣りながら、滝ノ沢から少し遡行して野営

二日目のテント場　　ゲットした岩魚を焚き火で塩焼き。刺身もできました。

三日目は源流部まで遡行し三国平から熊ノ平へ戻り、さらに雪投沢まで移動

東俣の魚止めの滝

三日目のテント場　雪投沢上部
この日は夜半に小雨、風の音に悩まされました

三日目、熊ノ平から新蛇抜山へ向かう

四日目は塩見岳を目指して

四日目の朝のご来光　テント場より

塩見岳を目指して